

Tour of Japan 2023

COVID-19感染対策マニュアル

※当内容は、2023年5月12時点の内容です。
今後、感染状況等に応じて変更になる場合があります。



Tour of Japan 組織委員会

INDEX

■2022年大会からの変更点（抜粋）	3
■はじめに	
本マニュアルの目的	4
用語の定義	4
感染対策に使用される検査	5
■実施概要	
1. グローバルリスク評価	6
2. パンデミックの評価	7
3. パンデミックの状況に応じた様々な対策	7
4. 対策実施内容	9
5. 情報の交換	10
■TOJ開催における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン	
TOJ開催における新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン	11
開催期間中（各々の会場入り～28日）の注意点まとめ	15
■TOJ開催中止の判断基準	16
■抗原検査の実施	17
■健康チェックフォーム	18
■感染対策チーム	
組織体制図	19
医師／専門家	20
感染対策担当者	21
■各開催地における医療機関一覧	22
■対応フロー	26
感染疑い発生時の対応フロー	26
大会関係者が陽性者と確定された際の対応	26
■一般観客のTOJ観戦について	
会場での観戦	27
配信	27
■会場における感染対策体制	
感染対策ブースの概要	28
堺ステージ	29
京都ステージ	30
いなべステージ	31
美濃ステージ	33
信州飯田ステージ	34
富士山ステージ	35
相模原ステージ	37
東京ステージ	39
■会場設置注意喚起看板（全ステージ共通）	40
■備品リスト	41
■参考・出典	43

2022年大会からの変更点（抜粋）

●バブルの条件・抗原検査について

2022年大会	2023年大会
対象：レースバブル ▼いずれかの条件を満たすこと ①2回目のワクチン接種から7日経過～9カ月以内 ②コロナ感染によるPCR検査陽性判明後11日から6カ月以内 ③コロナ感染から6ヵ月経過後は、ワクチン接種必須とし、接種から7日経過～9カ月以内 ④大会参加前2日以内のPCR検査陰性証明（ワクチン未接種の場合は必須） ※UCIでは、3回目のワクチン接種を推奨 対象：セミバブル ■大会参加3日前に受けた抗原検査の陰性確認 ■大会参加24時間以内に受けた抗原検査の陰性確認 ※ワクチン未接種の場合、大会参加3日前にPCR検査で陰性を確認すること	バブルという考え方は無し。 ■チーム 運営側より支給する抗原検査で会場入り日中に陰性を確認 ■コミセール コミセール会議にて支給する抗原検査にて、支給日中に陰性を確認 ■全体運営スタッフ 会場入り24時間以内に抗原検査で陰性を確認 ※全ステージ従事する場合、第4ステージ(美濃)終了後から5月24日（水）23:59までに抗原検査を実施し、合計2回の陰性を確認 ■各ステージ側のスタッフ 抗原検査の実施無し ■マーシャル 抗原検査の実施無し

●健康観察記録の媒体について

2022年大会	2023年大会
■使用媒体：テレサ(開発:アルビレックス新潟) ■提出タイミング：毎朝10時まで ※大会中は宿泊施設出発前 ■提出期間：大会10日前から大会5日後	・ Googleフォームにて実施 ・ 会場入り24時間以内に1度回答

●観客について

2022年大会	2023年大会
・ 有観客 ・ 観客はマスク着用 ・ 会場ではサーモグラフィーによる検温	・ 有観客 ・ 観客が密集するエリアではマスク着用を推奨する ・ 会場には、感染対策テントを設置

本マニュアルの目的

●目的

2019年末に発生し、全国に拡大したCOVID-19は社会的に大きな影響を与え、「3密の回避」「マスクの着用義務」等、人々の生活を一変させました。2023年春時点では、未だ終息していませんが、日本政府は2023年5月より、COVID-19を季節性インフルエンザと同様の「5類」へ移行することが予定されております。

本マニュアルは、このような状況において、安心・安全なイベント開催を実現するため、COVID-19の基礎知識を整理するとともに、イベント実施時の感染予防対策を明確に示し、最大限リスクを低下させることを目的としています。

また、万が一、イベント実施時にCOVID-19陽性者が発生した場合は、迅速かつ的確な対応を行うためのツールとなるよう、適宜アップデートを行うものです。

用語の定義

●COVID-19

「COVID-19（SARS-CoV-2）」はコロナウイルスのひとつです。コロナウイルスには、一般の風邪の原因となるウイルスや、「重症急性呼吸器症候群（SARS）」や2012年以降発生している「中東呼吸器症候群（MERS）」ウイルスが含まれます。

ウイルスにはいくつか種類があり、コロナウイルスは遺伝情報としてRNAをもつRNAウイルスの一種（一本鎖RNAウイルス）で、粒子の一番外側に「エンベロープ」という脂質からできた二重の膜を持っています。自分自身で増えることはできませんが、粘膜などの細胞に付着して入り込んで増えることができます。

ウイルスは粘膜に入り込むことはできますが、健康な皮膚には入り込むことができません。表面に付着するだけと言われています。物の表面についたウイルスは時間がたてば壊れてしまいます。ただし、物の種類によっては24時間～72時間くらい感染する力をもつと言われています。

手洗いは、たとえ流水だけであったとしても、ウイルスを流すことができるため有効ですし、石けんを使った手洗いはコロナウイルスの膜を壊すことができるので、更に有効です。手洗いの際は、指先、指の間、手首、手のしわ等に汚れが残しやすいといわれていますので、これらの部位は特に念入りに洗うことが重要です。また、流水と石けんでの手洗いができない時は、手指消毒用アルコールも同様に脂肪の膜を壊すことによって感染力を失わせることができます。

●隔離

症状のある人や感染者を他の人から隔離し、感染や汚染の広がりを防止するものです。

●フィジカル・ディスタンス

感染予防に特化した言葉で、テレワークや人数制限、人と人との十分な間隔を空けるといった「感染拡大の防止に向けて身体的・物理的距離の確保」を指します。

はじめに

●感染確認に使用される検査

COVID-19を診断するための検査には、PCR検査、抗原定量検査、抗原定性検査等があり、いずれも被検者の細胞内にウイルスが存在しているかどうかを調べるための検査です。

(1)核酸検出検査

ウイルス遺伝子（核酸）を特異的に増幅する PCR（polymerase chain reaction）法が用いられます。検体中に遺伝子が存在しているか否かを定量的に確認する方法として、リアルタイム RT-PCR、簡便かつ短時間で結果判定ができる核酸検出方法として、LAMP（loop-mediated isothermal amplification）法や TMA（transcription mediated amplification）法等、等温で反応が進む簡易法が開発されています。

○リアルタイムRT-PCR

リアルタイム RT-PCR は定量法で、ウイルス量の比較や推移が評価でき、コピー数が推定できること等から信頼性が高いです。

○リアルタイムRT-PCR 以外のLAMP法、TMA法等の等温核酸増幅法

LAMP法やTMA法等は、COVID-19（SARS-CoV-2）遺伝子の検出までの工程が短縮され一定温度で実施可能な遺伝子検出法です。リアルタイムRT-PCRと比較して感度は落ちますが実用範囲で、反応時間が35～50分程度と短いといった利点があります。

○NEAR法

等温核酸増幅法（NEAR法- Nicking Enzyme Amplification Reaction）はCOVID-19の遺伝子を増幅して検出することで感染の有無を判断する検査であり、PCR検査の一つです。迅速に結果を得ることができ、医療機関でも多く導入されています。

(2)抗原検査

SARS-CoV-2の構成成分である蛋白質を、ウイルスに特異的な抗体を用いて検出する検査法です。核酸検出検査と同様に陽性の場合はウイルスが検体中に存在することを示します。抗原検査には、定性検査と定量検査があり、抗原定性検査は有症状者においてウイルスの抗原を検出し、診断に導く検査であり、症状発症から9日目以内の症例では確定診断として用いることができます。

無症状者に対する抗原定性検査は、リアルタイム RT-PCR 法等と比較し感度が低下する可能性があるため、確定診断として用いることは推奨されません。

抗原定量検査は、専用の測定機器を用いてウイルス抗原の量を定量的に測定することができます。検査に抗原と抗体反応のウォッシュ過程があり、特異度も高く、感度も簡易な核酸検出検査と同レベルであり、無症状者に対する唾液を用いた検査に使用可能なことが示されているため、空港検疫等でも活用されています。

1. グローバルリスク評価

イベント開催中にウイルスの感染拡大及び、そのリスクを軽減するための適切な手段を決定することを目的とした評価です。基本的には国内外の感染状況や、WHOによって更新されるガイドラインを基に決定します。

1-1 COVID-19 に関するリスク評価

以下の6つの質問事項に対し、当てはまれば1、違っていれば0を付けてその大会が今どのくらいのリスクがあるのかを評価する。トータル数字を計算し、合計を出す。

- ・このイベントはCOVID-19が発生している国で開催されるか。
- ・このイベントは複数の都市や地域などで開催されるか。
- ・このイベントはCOVID-19が発生している国からの参加者が含まれているか。
- ・このイベントは室内で行われるか。
- ・このイベント参加者の中には、COVID-19に感染することで大きな影響を受ける人がいるか。
(例：障害をもった人や健康的ではない人等)
- ・このイベントはCOVID-19の感染拡大をする条件がふくまれているか。
(例：大勢でのスタート、大勢でのゴール、フィジカル・ディスタンスの制限等)

1-2 最終決定のマトリックス

リスクと、リスク軽減のマトリックスはリスク評価(1-1)の合計点と、リスク軽減のスコアを組み合わせで拡散などのリスクを「色」で表します。色によってそのイベントの開催リスクの決定が行われます。

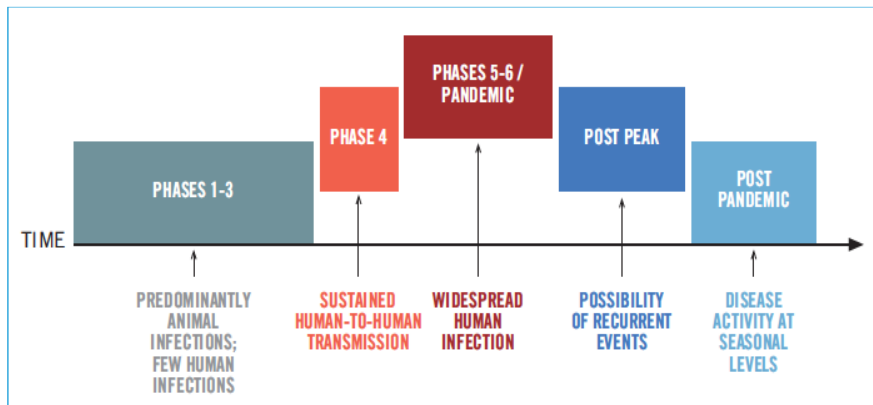
Total Risk Assessment Score	COVID-19感染症の影響を低減するため万全な準備がされている (76-100)	COVID-19感染症の影響を低減するための準備がややされている (51-75)	COVID-19感染症の影響を低減するための準備がされていない (26-50)	COVID-19感染症の影響を低減するための準備がされていない (0-25)
0 – Negligible	Very Low	Very Low	Very Low	Very Low
1 – Very Low Risk	Very Low	Very Low	Low	Low
2 – Low Risk	Low	Low	Low	Moderate
3 – Moderate Risk(low-moderate)	Low	Moderate	Moderate	Moderate
4 – Moderate Risk(high-moderate)	Moderate	Moderate	High	Very High
5 – High Risk	High	High	Very High	Very High
6 – Very High Risk	Very High	Very High	Very High	Very High

【評価シート凡例】

Very Low	イベント実施、施設再開に伴う新型コロナウイルス感染拡大リスクは非常に低いと考えられる。
Low	イベント実施、施設再開に伴う新型コロナウイルス感染拡大リスクは非常に低いと考えられる。さらなるリスク低減措置を取ることができないか検討することを推奨。
Moderate	イベント実施、施設再開に伴う新型コロナウイルス感染拡大リスクは中程度と考えられる。積極的にリスク低減措置をとる努力を行うことを推奨。
High	イベント実施、施設再開に伴う新型コロナウイルス感染拡大リスクは高いと考えられる。積極的にリスク低減措置をとる努力を行うとともに、外部環境の状況を踏まえイベントの実施、施設再開判断を行うことを推奨。
Very High	イベント実施、施設再開に伴う新型コロナウイルス感染拡大リスクは非常に高いと考えられる。

2. パンデミックの評価

基本的な基準はWHO が定めたものを参考にする。イベント主催者は、各国の感染者数と、 R_0 と呼ばれる1個人が感染し、その個人が他人に移す可能性がある人数を示す数値を知るために、地域または、国の保健当局に連絡する必要があります。その結果でパンデミックの判断を決定します。



2-1 パンデミックの段階

パンデミックは何種類かに分類されるが、自転車競技はフェーズ1～4、パンデミック後フェーズの5種類のみ開催されるべきであると考えます。(基本は地方自治体または、国の当局の権限化にあります)

2-2 パンデミックの評価について

主催者は、大会2週間前までに、「過去7日間の平均値」をもとに判断し、UCIに提出します。その後、変更があった場合は、都度更新し、報告をします。

3. パンデミックの状況に応じた様々な対策

WHO の定めるフェーズレベルで3つのリスクレベルに分けられます。そのレベルによって、対応レベルも変わります。(詳細は次ページの表参照)

各地域、或いは各国当局によって決定がくだされた場合でも、自転車競技大会は、次に示すパンデミックの段階でのみ開催が可能であることを考慮することが妥当です。

－中程度のリスク期間 (WHOフェーズ4)

動物媒介性コロナウイルスの人と人との間での感染が確認され、「流行の発生」を引き起こす可能性がある。必ずしもパンデミックが避けられないことを意味するものではない。

－低リスク期間 (WHOフェーズ3、ピーク後期間)

- ・フェーズ3：散発性感染、或いは呼吸器感染症の小さなクラスターを引き起こすコロナウイルスの循環がある。人から人への感染は、アウトブレイクの発生には十分ではない。
- ・パンデミックピーク後：パンデミック活動は減少しているように見えるが、新たな波が起こるかどうかは定かではない。

－非常に低いリスク期間 (WHOフェーズ1、2、パンデミック後期)

コロナウイルスが人に感染を引き起こしたことが確認され、野生及び家畜（動物観流行状況）に存在が確認される。或いはコロナウイルスが季節性ウイルスと同等の状態になる。

実施概要

パンデミックの状況に応じた様々な対策		高いリスク	中程度のリスク	低いリスク
開催前の対策 (主催者)	COVID-19コーディネーターの任命	主催者必須	推奨	推奨
	宿泊施設の手配	主催者必須	推奨	望ましい
	国内の感染対策ルールの情報共有	主催者必須	推奨	推奨
	国内の抗原検査PCR検査 受検機関情報の共有	チーム必須	推奨	望ましい
開催前の対策 (チーム)	定期的な陰性確認	チーム必須	推奨	推奨
レース中の対策	健康チェック	チーム必須	推奨	推奨
	換気の悪い環境でのマスク着用	主催者必須	推奨	望ましい
	フィジカル・ディスタンスの確保 (メディア・VIPなど)	主催者必須	推奨	望ましい
	汚染用ゴミ箱の用意	主催者必須	推奨	望ましい
	出走登録エリアの調整	主催者必須	推奨	望ましい
	スタートエリアの制限	主催者必須	推奨	望ましい
	フィードゾーンの調整	主催者必須	推奨	望ましい
	組織・チームの車両使用規制	推奨	望ましい	望ましい
	フィニッシュエリアの制限	主催者必須	推奨	望ましい
レース後の対策	表彰式の調整	主催者必須	推奨	望ましい
	アンチドーピングとの連携	主催者必須	主催者必須	推奨
	検査時の手袋・マスクの着用	主催者必須	推奨	推奨

4. 対策実施内容

4-1 開催前の対策（主催者）

- (1) 主催者と保険当局との間を担うCOVID-19コーディネーターを任命。
- (2) 宿泊施設の手配では、可能であれば各チーム1つのフロアを使い、チーム間の距離をとること。各ホテルには必要な予防策や、清掃と消毒に関する施行規則を伝えておく必要がある。（部屋の掃除、フィジカル・ディスタンス、手洗い、マスク着用等）
- (3) 国内の感染対策ルールを共有する。
- (4) 国内の抗原検査もしくはPCR検査の受検機関情報を共有する。

4-2 開催前の対策（チーム）

- (1) チームメンバー（選手、スタッフ）は、主催者が用意する抗原検査を実施し、会場入り日中に陰性を確認する。抗原検査キットはツアーデスクより受け取ること。

4-3 レース中の対策

- (1) 大会期間中、発熱、体調不良等の自覚症状がある場合、直ちにチーム監督を通じ、感染対策チームへ申し出、医師の診察、抗原検査を受ける。陽性が確認された場合は隔離状態を確保の上、安静または受診等医師の判断を仰ぎ、大会会場には来場しない。
- (2) 換気の悪い環境では、マスクを着用する必要がある。
- (3) フィジカル・ディスタンスを意識する。（最低1.5mの間隔を保つ）
特に、メディアエリアでは距離を確保し、VIPエリアではマスクを着用すること。
- (4) 汚染用ゴミ箱の用意をする。
- (5) 出走登録でもフィジカル・ディスタンスを確保すること。
- (6) スタート/フィニッシュエリアのアクセス制限。
 - スタートエリアには重要な人々のみアクセスを許可。
開始数分前に選手のマスクを回収。
 - フィニッシュエリアでは、重要な人（各チーム1~2名+数名のフォトグラファー）のみアクセスを許可。
- (7) 大会車両の規則。
 - 車内でのマスクの着用。
 - 天候次第ではあるが、窓を半分開放する。

4-4 レース後の対策

- (1) 表彰式では下記対策を講じる。
 - 一度に賞品を受け取る選手の人数を制限。
 - 表彰台のブロックは1.5m間隔をあけて配置する。
 - 表彰台の前で待機する際は1.5m間隔をあける。
 - 手指消毒後に選手が自分でメダルを持つ。
 - カメラマン（マスク着用）の人数を制限する。
- (2) アンチドーピングとの連携。選手とドーピングスタッフはフィジカル・ディスタンスを保つ。
- (3) 検査の際は手袋とマスクを着用し、選手もマスクを着用すること。

4-5 大会終了後

大会の関係者や参加者で、大会終了から1週間の間にCOVID-19を発症、陽性を確認した場合は、COVID-19コーディネーター、または主催者への電話またはメールにて報告を必須とする。

○COVID-19コーディネーター

福島 圭介 ((株)ピースフル)

電話：090-6156-1313

Mail：fukushima@peaceful-hp.com

○主催者

村山 吾郎 ((一財)日本自転車普及協会)

電話：03-4334-7952

Mail：murayama@jifu.jp

5. 情報の交換

大会開催に必要な情報を共有するために、UCIがデータストレージを開設する。
主催者は、大会14日前までに下記2つの情報を提出する。

(1) 開催国の疫学的状況

- 直近1週間の10万人あたりの新規感染者数値
- 実効再生産数

(2) 感染対策の概要



Tour of Japan 2023 開催における COVID-19 対策ガイドライン

I. はじめに

本ガイドラインは、ツアー・オブ・ジャパン 2023(以下「TOJ」)を開催するにあたり、参加者における COVID-19 拡大防止、リスク軽減のための対策について、各機関の提言等を参考に TOJ 開催に特化し、作成したものです。TOJ に参加する皆様には、本ガイドラインに沿った予防対策を必ず実施いただくよう、お願いいたします。

なお、大会の開催に際しては、日本政府(厚生労働省、スポーツ庁、日本スポーツ協会、JOC などを含む)ないしは、開催地の各都府県の方針に従うことが大前提となります。また、大会参加や運営等に伴う移動、宿泊等に関しては、国土交通省、観光庁等、関連する諸機関の指針に準拠します。

(参考資料)

- 「Rules to be applied for the organisation of road cycling competitions in the context of the COVID-19 pandemic in 2023-ロードサイクリング競技会の開催に適用される規則 2023 年の COVID-19 パンデミックの環境で」-UCI
https://assets.ctfassets.net/761l7gh5x5an/5nNxcG6oOslo6sdJfks4yn/24b2c73c614a55120e82512702dfccf8/Protocol_COVID_Road_ENG_Jan2023.pdf
- 「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」-公益財団法人日本スポーツ協会
<https://www.japan-sports.or.jp/about/tabid1278.html>
- 「緊急事態宣言解除後の大会開催に向けたガイドラインについて」-公益財団法人日本自転車競技連盟
https://cutt.ly/JCF_guidelineaboutcovid-19
- 「新型コロナウイルス感染症に関する国土交通省の対応」-国土交通省
https://www.mlit.go.jp/kikikanri/kikikanri_tk_000018.html
- 「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)病原体検査の指針」-厚生労働省
<https://www.mhlw.go.jp/content/000678571.pdf>

II. TOJ 開催における対策事項

1. TOJ 全体の対策事項

- (1) 感染対策チームの設置、帯同(医師を含む)。
- (2) TOJ ホームページにおける関係者、参加者、観客に向けた本ガイドラインの掲載及び周知。
- (3) チーム(選手、チームスタッフ、チーム広報)、コミセール、スタッフは、会場入り 24 時間以内に、健康状態の記録を所定のフォームにて提出必須。
- (4) スタッフ(マーシャル、各ステージスタッフは除く)は、会場入り 24 時間以内に、抗原検査を実施し陰性を確認すること。なお、8 ステージ通して従事する関係者は、第 4 ステージ(美濃)終了後から 5 月 24 日(水)23:59 までに追加で抗原検査を実施し陰性を確認すること。
- (5) 感染者発覚後のプロセスの明確化。
- (6) 大会会場の各所に、手指消毒液及び感染防止対策注意喚起看板を配置。
- (7) 大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置や廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底。
- (8) フィジカル・ディスタンスに留意し、密閉空間、密集場所、密接場面ではマスクを着用する。



- (9)大会コミュニケ、スタートリスト、リザルト等は、極力メーリングリストやSNSを使用した配布とし、ペーパーレス化を図る。
- (10)以下に該当する方は、大会へのいかなる参加(大会会場への来場、観戦含)も不可とする。
- ①大会会場来場当日に、下記 a~d を含む体調不良のある方
 - a. 体温 37.5℃以上
 - b. 強い倦怠感
 - c. 感冒様症状(咳、咽頭痛、息苦しさ等)
 - d. 味覚・嗅覚異常などの異変がある
 - ②PCR、LAMP、抗原検査受診結果が陽性で、下記に該当する方
 - 有症状で、発症日から5日間かつ症状軽快後 24 時間以内
- *無症状病原体保有者では、再検査で陰性を確認できない方は、参加について医師に相談

2. チーム(選手、チームスタッフ、チーム広報)の対策事項

- (1)会場入り 24 時間以内に、健康状態の記録を所定のフォームにて提出必須。
- (2)大会期間中、発熱、体調不良等の自覚症状がある場合、直ちにチーム監督を通じ、感染対策チームへ申し出、医師の診察、抗原検査を受ける。陽性が確認された場合は隔離状態を確保の上、安静または受診等医師の判断を仰ぎ、大会会場には来場しない。
- (3)チームメンバーは、大会期間中、密閉空間、密集場所、密接場面ではマスクを着用し(選手はレース中を除く)、適宜うがい、手洗い、手指消毒を行い、こまめに携帯電話等の所持品の消毒も併せて行う。具体的には、表彰時、車両移動時はマスクの着用が必須である。また、スタートエリアでも、スタート数分前にスタッフがマスクを回収するまでは必ずマスクを着用すること。
- (4)大会期間中は、可能な限り外部者との接触を避け、大会以外の不要不急の外出を自粛する。
- (5)レース前の出走サインは省略とし、IC タグのチェックで出走確認を行う。
- (6)レース補給地点へは決まった補給員のみ配置し、補給の際はマスクを着用する。
- (7)会場チームピット内は、基本的にチーム関係者以外の立ち入りは禁止。
- (8)チームピットや準備エリアにいる人数に応じて、フィジカル・ディスタンスを確保する。
- (9)レース中に唾や痰を吐くことは極力行わない。
- (10)選手間のタオル、ボトルなどの共用はしない。
- (11)補給に使用したボトル、ジェルなどは指定場所以外に捨てない。
- (12)表彰式では、表彰対象選手は、授与されるジャージを自ら着用、副賞等を持参の上、ステージに登壇する。
- (13)大会会場や公共の場において、ウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル、スクイズボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置や廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する。
- (14)選手、チームスタッフがメディアの取材を受ける際は、1.5m 以上のフィジカル・ディスタンスを保つ。
- (15)大会期間中、チームから COVID-19 陽性者が発生した場合、当該選手、スタッフは指示された期間大会参加不可とする。

3. コミセールの対策事項

- (1)会場入り 24 時間以内に、健康状態の記録を所定のフォームにて提出必須。
- (2)大会期間中、発熱、体調不良等の自覚症状がある場合、直ちに主催者が用意する抗原検査を実



- 施し、JCF 担当者を通じ、感染対策チームへ連絡する。陽性の場合は、大会会場には来場しない。
- (3) コミセールは、大会期間中、密閉空間、密集場所、密接場面ではマスクを着用し、適宜うがい、手洗い、手指消毒を行い、こまめに携帯電話等の所持品の消毒も併せて行う。車両移動時はマスクの着用が必須である。
 - (4) 大会期間中は、可能な限り外部者との接触を避け、大会以外の不要不急の外出を極力控える。
 - (5) コミセールカーやオフィシャルカーは、適宜換気を行い、使用前後に車内やハンドル等の手が触れる場所の除菌、消毒を行う。また、私物や飲食物を車内に放置しない。
 - (6) 大会会場における施設、またはテント内では、間隔を空けて着席し、三密を避ける。
 - (7) 大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置や廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する。
 - (8) 大会期間中、コミセールに COVID-19 陽性者が発生した場合、該当者は指示された期間、大会参加不可とする。

4. スタッフの対策事項

- (1) 会場入り 24 時間以内に、健康状態の記録を所定のフォームにて提出必須。
- (2) 事前に主催者より送付する抗原検査を実施し、陰性を確認すること。陽性の場合は、直ちに感染対策チームに報告すること。実施概要については下記の通りである。
 - ① 全ステージに従事するスタッフ: 合計 2 回実施
 - ・ 会場入り 24 時間以内に実施
 - ・ 第 4 ステージ(美濃)終了後から 5 月 24 日(水) 23:59 までに、追加で実施
 - ② 一部ステージに従事するスタッフ: 1 回実施
 - ・ 会場入り 24 時間以内に実施
 - ③ マーシャル、各ステージスタッフ: 実施なし
- (3) 大会期間中は、可能な限り外部者との接触を避け、大会以外の不要不急の外出を極力控える。
- (4) 大会期間中、体調不良等の自覚症状がある場合、直ちに所属グループ代表者を通じ、感染対策チームへ申し出、隔離状態を確保の上、大会会場には来場しない。
- (5) 大会関係者は、大会期間中、密閉空間、密集場所、密接場面ではマスクを着用し、適宜うがい、手洗い、手指消毒を行い、こまめに携帯電話等の所持品の消毒も併せて行う。
- (6) オフィシャルカーや関係車両は、適宜換気を行い、使用前後に車内やハンドル等の手が触れる場所の除菌、消毒を行う。また、私物や飲食物を車内に放置しない。
- (7) 大会会場における施設、またはテント内では、間隔を空けて着席し、三密を避ける。
- (8) 大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、着用後のビブス、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置や廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する。
- (9) 大会期間中、スタッフに COVID-19 陽性者が発生した場合、該当者は、指示された期間、運営への参加不可とする。

5. 取材・メディアの対策事項

- (1) 大会取材を希望する際は、事前に取材申請を行い、取材同意書をメールまたは Web で提出必須。
- (2) 感染症罹患の疑いがある、または発熱、体調不良等の自覚症状がある場合、大会会場に来場しない。



- (3)取材中は、常時マスク着用を必須とし、適宜うがい、手洗い、手指消毒を行う。
- (4)取材中は、事前に送付された不織布ビブス及びADカードを着用し、取材後は持ち帰りの上、廃棄する。
- (5)選手、チームスタッフ等に取材を行う際は、1.5m以上のフィジカル・ディスタンスを保つ。
- (6)取材時は、取材者同士のフィジカル・ディスタンスも十分に確保する。
- (7)プレス車両に乘車する際も、マスク着用を必須とする。乗車前に手指消毒を行い、会話は控える。また、私物や飲食物を車内に放置しない。
- (8)撮影エリア(フォトグラファー・エリア)は、設定された人数制限及びTOJ広報官の指示に従う。
- (9)大会会場における施設、またはテント内等では、間隔を空けて着席し、三密を避ける。
- (10)大会会場や公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置や廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底する。

6. 観客の対策事項

- (1)TOJ ホームページに掲載する感染対策や本ガイドラインを事前に確認し、遵守すること。
- (2)感染症罹患の疑いがある、または発熱、体調不良等の自覚症状がある場合、大会会場に来場しない。
- (3)大会会場では、適宜手洗い、手指消毒を行う。
- (4)大会会場内のチームピットエリアやゾーニングが付けられたエリアへの立ち入り禁止。
- (5)大会会場及びスタート・フィニッシュエリア、コース沿道等の密集場所、密接場面ではマスクを着用すること(推奨)。
- (6)大会会場及びスタート・フィニッシュエリア、コース沿道では、フィジカル・ディスタンスに十分留意する。
- (7)大会会場及びスタート・フィニッシュエリア、コース沿道、公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類(マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等)の放置や廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底し、ごみを捨てない。
- (8)会場内オフィシャルグッズ販売ブースを利用する際は、手指消毒を行うこと。

Ⅲ. TOJ 開催中止の判断基準(延期はしないものとする)

- 1. 日本政府より、大規模イベントの延期、自粛、中止要請が発令された場合。
- 2. UCI より、コロナ禍におけるレース大会の延期、自粛、中止要請が発令された場合。
- 3. 大会開催前に下記のいずれかの理由により参加チームの出場辞退が発生し、出場チームが8チーム以下になる場合。
 - (1) チーム内で COVID-19 罹患者が発生し、チーム内の他の選手やスタッフも隔離が必要な場合。
 - (2) 選手の体調不良を含む傷病等の原因により、1チームの最低出場人数4名が確保できない場合。
- 4. 大会期間中に COVID-19 のクラスター感染が発生した場合。
- 5. その他、大会を中止せざるを得ない事象が発生した場合。

このガイドラインは 2023 年5月8日時点でのものであり、感染状況や政府の対策方針などに基づき、適宜更新いたします。

関係各所へのお願い

開催期間中（各々の会場入り～28日）の注意点まとめ

以下はガイドラインから要約した内容です。開催期間中、必ず下記を守って行動をしてください。不明点があれば感染対策チームへお問合せください。

<感染対策チーム問合せ先>

▼抗原検査陽性時の連絡先：山脇

mail [yamawaki@peaceful-hp.com] tel [080-9827-2547]

▼体調不良時の連絡先：福島

mail [fukushima@peaceful-hp.com] tel [090-6156-1313]

●接触についての基本ルール

- ・必ず3密の回避を守ってください。
- ・フェイスシールドについては、必須ではありません。
- ・密閉空間、密集場所、密接場面ではマスクを着用してください。
特に下記の場合に着用が必要です。
 - * スタートエリア（選手のマスクはスタート前に回収します）
 - * 表彰時（登壇中のマスク着用は任意となりますが、登壇前は着用をお願いします）
 - * 車両移動時

フィーディングゾーンでの補給時のマスク着用は任意となります。

●会場以外での行動制限

- ・行動制限はございません。
ただし、感染リスクが高いのは会場内の休憩場所、宿泊先などの屋内です。基本的な感染対策を徹底してください。

●会場内での行動

- ・チームピット付近の立ち入りは、ADパス、メディアビブスを着用したスタッフと警察官、消防職員のみです。一般の方は、原則として立ち入り禁止です。

●感染対策テント

- ・スタート会場、フィニッシュ会場に感染対策テントを設置します。
- ・検温器や手指消毒を用意しておりますので、適宜ご利用ください。

●感染対策装着物

- ・フェイスシールド：必須ではありません。
- ・ゴム手袋：ガイドライン上、ドーピング検査時のみ必須です。

開催中止の判断基準

TOJ開催中止の判断基準

1. 日本政府より、大規模イベントの延期、自粛、中止要請が発令された場合。
 2. UCIより、コロナ禍におけるレース大会の延期、自粛、中止要請が発令された場合。
 3. 大会開催前に下記のいずれかの理由により参加チームの出場辞退が発生し、出場チームが8チーム以下になる場合。
 - (1) チーム内でCOVID-19罹患者が発生し、チーム内の他の選手やスタッフも隔離が必要な場合。
 - (2) 選手の体調不良を含む傷病等の原因により、1チームの最低出場人数4名が確保できない場合。
 4. 大会期間中にCOVID-19のクラスター感染が発生した場合。
 5. その他、大会を中止せざるを得ない事象が発生した場合。
- 以上、延期はしないものとする。

抗原検査の実施

●抗原検査の実施義務について

抗原検査の実施を義務付ける対象者は下記の通りである。**それぞれ陽性の場合のみ、感染対策チームに報告すること。**

所属		会場入り前	会場入り後
チーム	選手	×	ツアーデスクから受け取り次第 速やかに実施
	スタッフ		遅くとも5月20日（土）中には 実施
コミセール		×	コミセール会議で受け取り、 5月20日（土）中に実施
マーシャル		×	×
スタッフ	全ステージ 従事	会場入り前 24時間以内に実施 ※大会側から事前 送付	第4ステージ（美濃）終了後から 5月24日（水）23:59までに 再度実施
	一部ステージ 従事	会場入り前 24時間以内に実施 ※大会側から事前 送付	×
	各ステージ スタッフ （地域実行委員）	×	×

●大会期間中について

大会期間中、発熱、体調不良等の自覚症状がある場合、直ちにチーム監督を通じ、感染対策チームへ申し出、医師の診察、抗原検査を受ける。

健康チェックフォーム

●実施対象者

チーム（選手・スタッフ）、コミセール、マーシャル、スタッフ（全ステージ、一部ステージ）、すべての方が対象。

健康観察、所定のフォーム（Googleフォーム）を使用し、健康チェックを提出すること。

●入力日

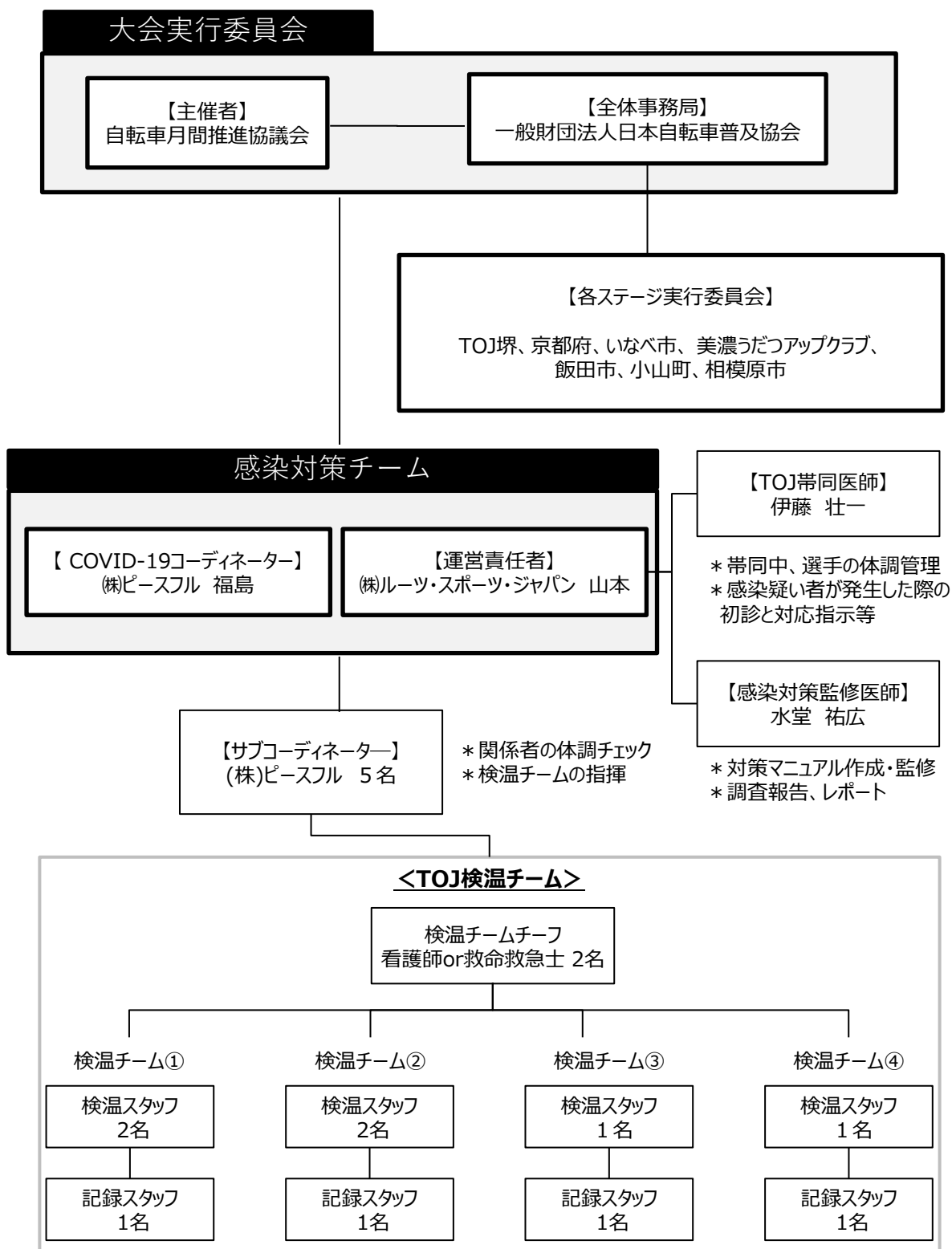
各自、会場入りの24時間以内とする。
必ず入力を済ませてから会場入りすること。

●フォームURL

<https://forms.gle/KBqBT8f4YKBh5eWV7>



組織体制図



医師/専門家

【TOJ帯同 感染対策チーム医師】

伊藤 壮一（いとう そういち） [資 格]

[専門科目]

救急医学、蘇生学、医学教育学
災害医療（日本DMAT隊員）

- 日本救急医学会救急専門医・指導医
- JPTECコース世話人・インストラクター
- JATECプロバイダー
- ICLSコースダイレクター・インストラクター
- ISLSインストラクター
- 米国ABLSインストラクター
- 米国Team STEPPS train the trainer certification
- ケンブリッジ英検 first certification

[職 歴]

- 東京女子医科大学第四内科入局
- 川崎市立川崎病院 総合診療科
- 川崎市立川崎病院 救命救急センター 副センター長
- 麻生総合病院 救急総合診療科 部長
- 医療社団法人総生会 麻生総合病院 救急総合診療科

【感染対策監修担当医師】

水堂 祐広（すいどう よしひろ） [資 格]

[専門科目]

呼吸器内科、感染症内科、救急一般

- 日本呼吸器学会、**日本感染症学会専門医**
- 日本内科学会総合内科専門医・指導医
- 日本化学療法学会抗菌化学療法指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医
- ICD制度協議会認定インфекションコントロール
ドクター
- JMECCコースインストラクター
- ICLSインストラクターコースディレクター

[職 歴]

- 川崎市立川崎病院 総合診療科・救急科
- 川崎市立井田病院 呼吸器内科
- 神奈川県立循環器呼吸器病センター 呼吸器内科
- 藤沢市民病院 呼吸器内科
- 大和私立病院 呼吸器内科 藤沢市民病院
救急科兼任
- 麻生総合病院 救急総合診療科 内科兼任

感染対策担当者

大会期間中に何かございましたら、ピースフル福島もしくは山脇までご連絡ください

所属		担当者名	連絡先
COVID-19 コーディネーター ★大会期間中の連絡先	(株)ピースフル	福島 圭介	Mail: fukushima@peaceful-hp.com TEL:090-6156-1313
COVID-19 サブコーディネーター ★大会期間中の連絡先	(株)ピースフル	山脇 敬義	Mail: yamawaki@peaceful-hp.com TEL:080-9827-2547
感染対策チーム 運営責任者	(株)ルーツ・スポーツ ・ジャパン	山本 美空	Mail :yamamoto.misora@roots- sports.jp TEL:080-3600-6172
主催者 (TOJ事務局 /東京ステージ)	(一財) 日本自転車普及協会	村山 吾郎	Mail: murayama@jifu.jp TEL:090-4076-8844
競技主管	(公財) 日本自転車競技連盟	齋藤 晃一郎	Mail: k.saito@jcf.or.jp TEL:03-6277-2690
堺ステージ 実行委員会	TOJ堺	佐々木 章	Mail: info@toj-sakai.co.jp TEL:090-3269-3066
京都ステージ 実行委員会	京都府	矢野 淳	Mail: j-yano56@pref.Kyoto.lg.jp TEL:090-4033-1699
いなべステージ 実行委員会	いなべ市	水谷 吉孝	Mail: y-mizutani02@city.inabe.mie.jp TEL:090-6610-3243
美濃ステージ 実行委員会	美濃うだつアップク ラブ	梅田 千尋	Mail: mino-umeda@cnn.aitiai.ne.jp TEL:090-6802-0471
信州飯田ステージ 実行委員会	飯田市	小島 滉平	Mail: ic4040@city.iida.nagano.jp TEL:090-4180-3549
富士山ステージ 実行委員会	小山町	鈴木 吏	Mail: suzuki_tsukasa@fuji-oyama.jp TEL:0550-76-6114
相模原ステージ 実行委員会	相模原市	川崎 翔太	Mail: kawasaki.yc@city.sagamihara.kanaga wa.jp TEL:042-851-3275

各開催地における医療機関一覧

各開催地における医療機関一覧

下記は開催期間中受入可能な医療機関ではなく、感染疑い者の診察実績のある医療機関です。受診をする場合は医療機関へ向かう前に感染対策チームから連絡して確認をします。

【堺ステージ】

医療機関名	外来	電話番号	住所
清恵会病院	救急外来	072-223-8199	堺市堺区南安井町1-1-1
耳原総合病院	救急外来	072-241-0501	堺市堺区協和町4-465
大阪労災病院	救急外来	072-252-3561	堺市北区長曾根町1179-3
堺市立総合医療センター	救急外来	072-272-1199	堺市西区家原寺町1-1-1

【京都ステージ】

医療機関名	外来	電話番号	住所
学研都市病院	月～土【8:00-12:00】 循環内/総合内/外/整/小児/皮膚/泌尿 《救急外来有》	077-498-2123	相楽郡精華町精華台7-4-1
精華町国民健康保険病院	月～土【8:30-12:00】 内/外/小児/整/皮膚/歯/泌尿	077-494-2076	相楽郡精華町祝園砂子田7
高の原中央病院	月～土【8:00-11:45】 総合/消化内/脳内/循環内/外/整/脳外/泌尿/産/耳鼻 《救急外来有》	074-271-1030	右京1-3-3
京都山城総合医療センター	月～金【8:30-11:30】 内/腎臓内/脳内/外/整/小児/皮膚/泌尿/産/眼/耳鼻 《救急外来有》	077-472-0235	木津川市木津駅前1-27

各開催地における医療機関一覧

【いなべステージ】

医療機関名	外来	電話番号	住所
日下病院	月～土 【午前9:00-12:00】 【午後14:00-18:00】 一般内/消化内/外/整尿/皮膚/耳鼻/脳外 《救急外来有》	059-472-2511	いなべ市北勢町 阿下喜680
三重北医療センター いなべ総合病院	月～金【8:15-11:30】 内/外/整/泌尿/小児/産/耳鼻/皮膚/眼 《救急外来有》	059-472-2000	いなべ市北勢町 阿下喜771
海津市医師会病院	月～土【8:20-12:00】 内/外/整 《救急外来有》	058-453-7111	海津市海津町福江 656-16

【美濃ステージ】

医療機関名	外来	電話番号	住所
美濃市立美濃病院	月～金【8:30-11:30】 総合内/リウマチ/消化内/循環内/整/眼/小児/泌尿/産 《救急外来有》	057-533-1221	美濃市中央4-3
中濃厚生病院	月～金【8:30-11:30】 総合内/消化内/循環内/腎臓内/呼吸内/外/脳外/小児/耳鼻/皮膚 《救急外来有》	057-522-2211	関市若草通5-1
岐北厚生病院	月～金【8:30-11:30】 総合内/循環内/消化内/外/脳外/眼/整形/小児/泌尿/産 《救急外来有》	058-122-1811	山県市高富1187-3

各開催地における医療機関一覧

【信州飯田ステージ】

医療機関名	外来	電話番号	住所
健和会病院	月～土【8:00-11:30】 内/脳内/外/泌尿/小児 《救急外来有》	026-523-3115	飯田市鼎中平1936
飯田病院	月～土【8:15-16:00】 内/呼吸内/循環内/ 消化内/腎臓内/糖尿/ 神経内/整/精 【8:15-11:00】外/眼 《救急外来有》	026-521-1255	飯田市大通1-15
飯田市立病院	月～金【8:30-11:30】 消化内/呼吸内/糖尿/腎臓内/ 脳内/外/歯/脳外/小児/整/形 成/泌尿/皮膚/眼/耳鼻 《救急外来有》	026-521-1255	飯田市八幡町438
輝山会記念病院	月～土 【午前9:00-12:00】 【午前16:00-18:00】 内/外 《救急外来有》	026-526-8111	飯田市毛賀1707

【富士山ステージ】

医療機関名	外来	電話番号	住所
富士小山病院 (小山町内)	月～金 【午前7:00～12:00】 【午後1:30～4:40】 内/外/整/眼 《救急外来有》	055-078-1200	静岡県駿東郡 小山町用沢437-1
富士病院 (御殿場市内)	月～金 【午前11:30まで】 【午後16:30まで】 内/腎臓内/透析内/循環内/消 化内/脳/糖尿/外/整/小児/泌 尿/眼/皮膚/婦 《救急外来有》	055-083-3333	静岡県御殿場市 新橋1784
富士吉田市立病院 (富士吉田市内)	月～金【8:15-11:00】 循環内/腎臓内/糖尿/脳内/小 児/外/脳外/整/皮膚/泌尿/産 /眼/耳鼻/透析/歯 《救急外来有》	055-522-4111	富士吉田市吉田東 7-11-1

各開催地における医療機関一覧

【相模原ステージ】

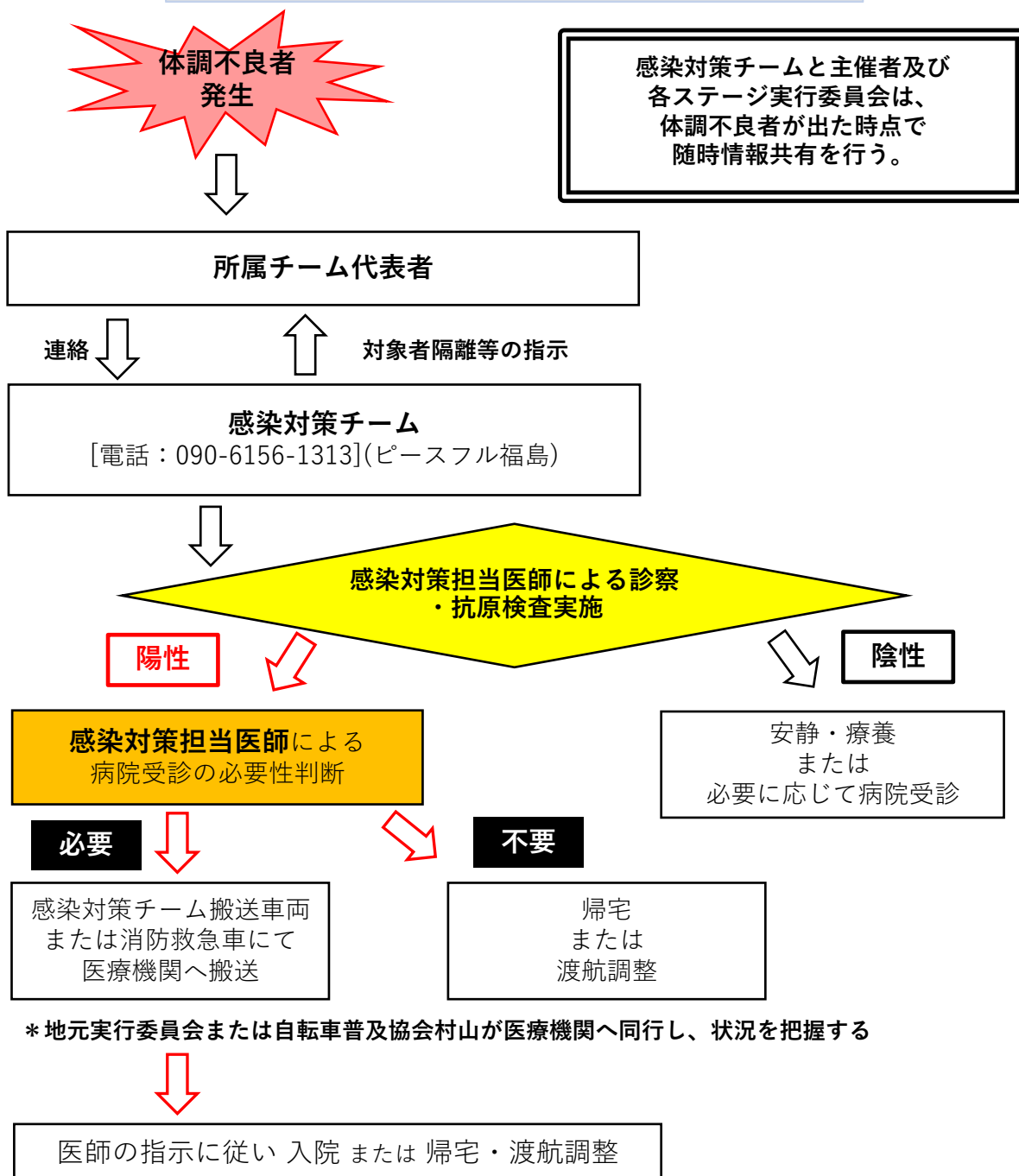
医療機関名	外来	電話番号	住所
森田病院	土曜外来有 【8:45-11:45】 内/外/整/皮膚 《救急外来有》	042-784-4114	相模原市緑区 三ヶ月627
総合相模更生病院	土曜外来有 【9:00-12:00】 内/外/整/小児/産/耳鼻 《救急外来有》	042-752-1808	相模原市中央区 小山3429
相模原協同病院	土曜外来有 【午前8:00-11:30】 総合内/循環内/消化内 消化外/小児/産/整/形成 皮膚/泌尿/眼/耳鼻/歯 《救急外来有》	042-761-6020	相模原市緑区 橋本台4-3-1
相模原赤十字病院	救急外来のみ	042-784-1101	相模原市緑区 中野256

【東京ステージ】

医療機関名	外来	電話番号	住所
東京品川病院	救急外来	03-3764-0511	品川区東大井6-3-22
第三北品川病院	救急外来	03-3474-1831	品川区北品川3-3-7
東京労災病院	救急外来	03-3742-7301	大田区大森南 4-13-21
大森赤十字病院	救急外来	03-3775-3111	大田区中央4-30-1

対応フロー

感染疑い発生時の対応フロー



* 地元実行委員会または自転車普及協会村山が医療機関へ同行し、状況を把握する

大会関係者が陽性者と確定された際の対応

抗原検査にて陽性者（確定）が出た場合、陽性者との接触が疑われるチーム関係者等は、健康観察を注意深く行い、発熱等の症状が現れた場合には感染対策チームに相談すること

一般観客のTOJ観戦

会場での観戦

- (1)TOJホームページに掲載するコロナ対策や本ガイドラインを事前に確認し、遵守すること。
- (2)感染症罹患の疑いがある、または発熱、体調不良等の自覚症状がある場合、大会会場に来場しない。
- (3)大会会場では、適宜手洗い、手指消毒を行う。
- (4)大会会場内のチームピットエリアやゾーニングが儲けられたエリアへの立ち入り禁止。
- (5)大会会場及びスタート・フィニッシュエリア、コース沿道等の密集場所、密接場面ではマスクを着用すること。
- (6)大会会場及びスタート・フィニッシュエリア、コース沿道では、フィジカル・ディスタンスに十分留意する。
- (7)大会会場及びスタート・フィニッシュエリア、コース沿道、公共の場におけるウイルスや飛沫が付着した可能性があるゴミ類（マスク、ティッシュペーパー、紙類、ペットボトル等飲食に使用した容器や包装、カトラリー等）の放置や廃棄禁止、密閉の上、持ち帰りを徹底し、ごみを捨てない。
- (8)会場内オフィシャルグッズ販売ブースを利用する際は、手指消毒行うこと。

配信

各会場にて、大型ビジョンを設営し、YouTubeによるライブストリーミング配信を実施

会場における感染対策体制

感染対策ブースの概要

●使用機材

検温は各会場入口付近にテントを設営し、希望者が検温できる環境を整えるとともに、医療従事者の配置を行い健康相談、体調不良者への対応を行える体制とする。

検温で 37.5℃ 以上を計測した場合には、体温計および問診票を使用して再検温を行います。

●人員配置

検温各テントには検温スタッフ 2 名、記録員 1 名を配置します。

記録員は、検温数の記録を行うことと、発熱を検出した際には医療従事者に引き継ぐ。

また、会場内には感染防止対策会場スタッフが巡回し、アルコール消毒の利用を案内、感染リスクが高い状態が発生していないか監視します。

検温で発熱が確認された来場者に対しては、再検温を行い再度発熱が認められた場合は入場不可とします。

●希望者への検温フロー

検温および再検温では以下のフローに従って入場の可否を判断します。

<入場可能>

検温所 37.4℃ 以下

検温所 37.5℃ 以上 再検温 37.4℃ 以下 問診結果問題なし

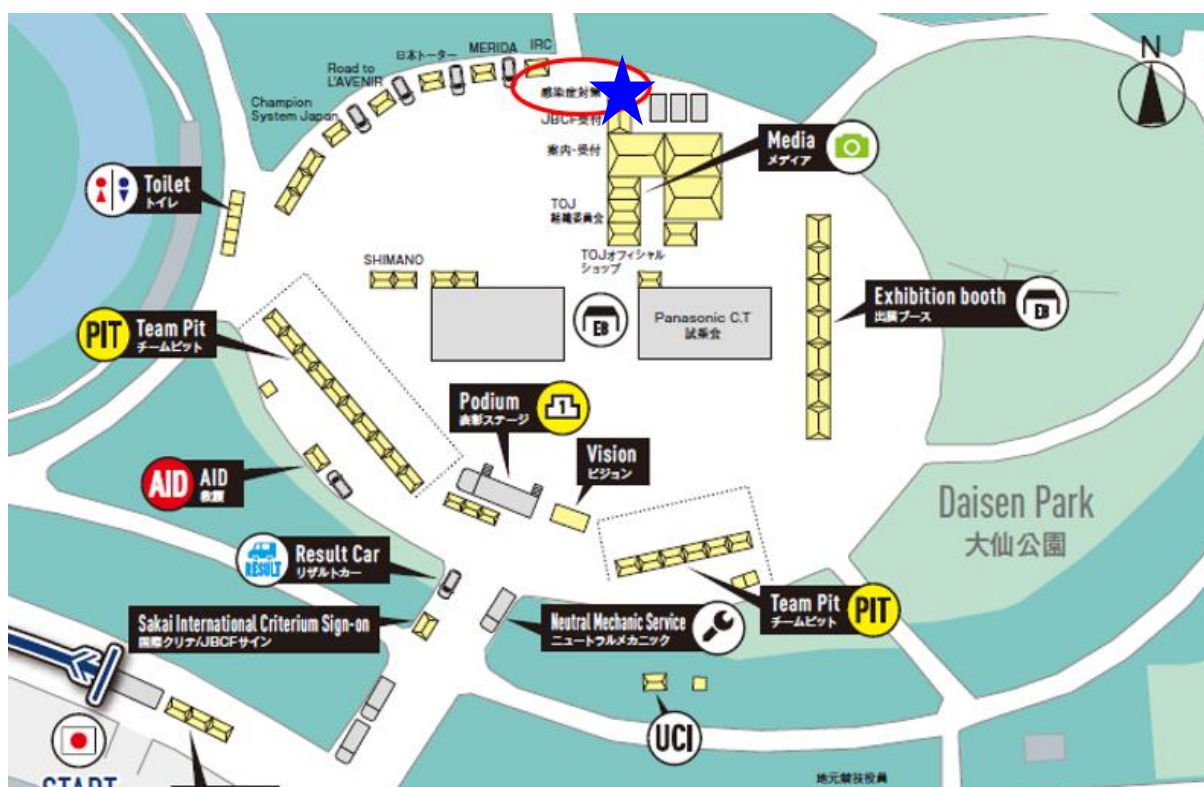
<入場不可>

検温所 37.5℃ 以上 再検温 37.4℃ 以下 問診結果問題あり

検温所 37.5℃ 以上 再検温 37.5℃ 以上

スタート／フィニッシュ
(計1か所)

★：感染対策ブース

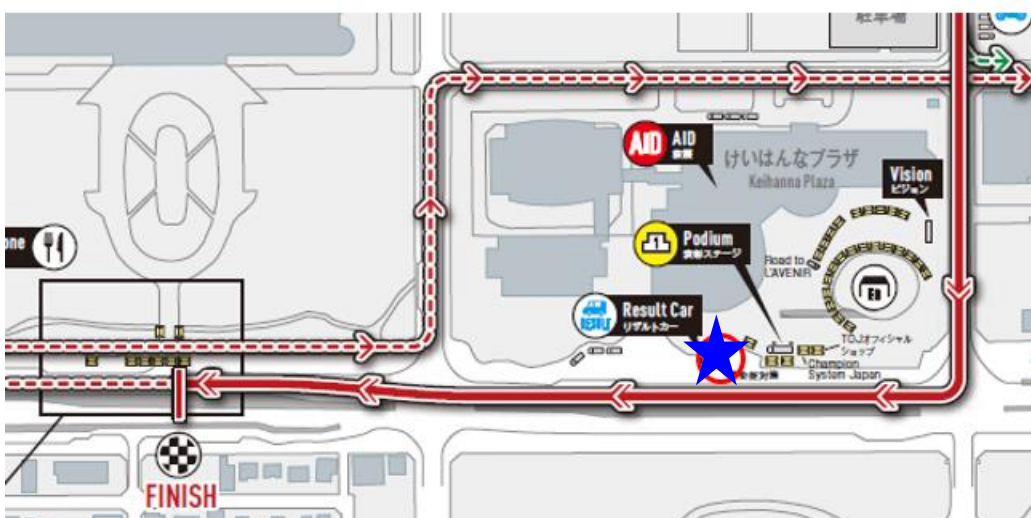


スタート (計1か所)

★：感染対策ブース



フィニッシュ (計1か所)



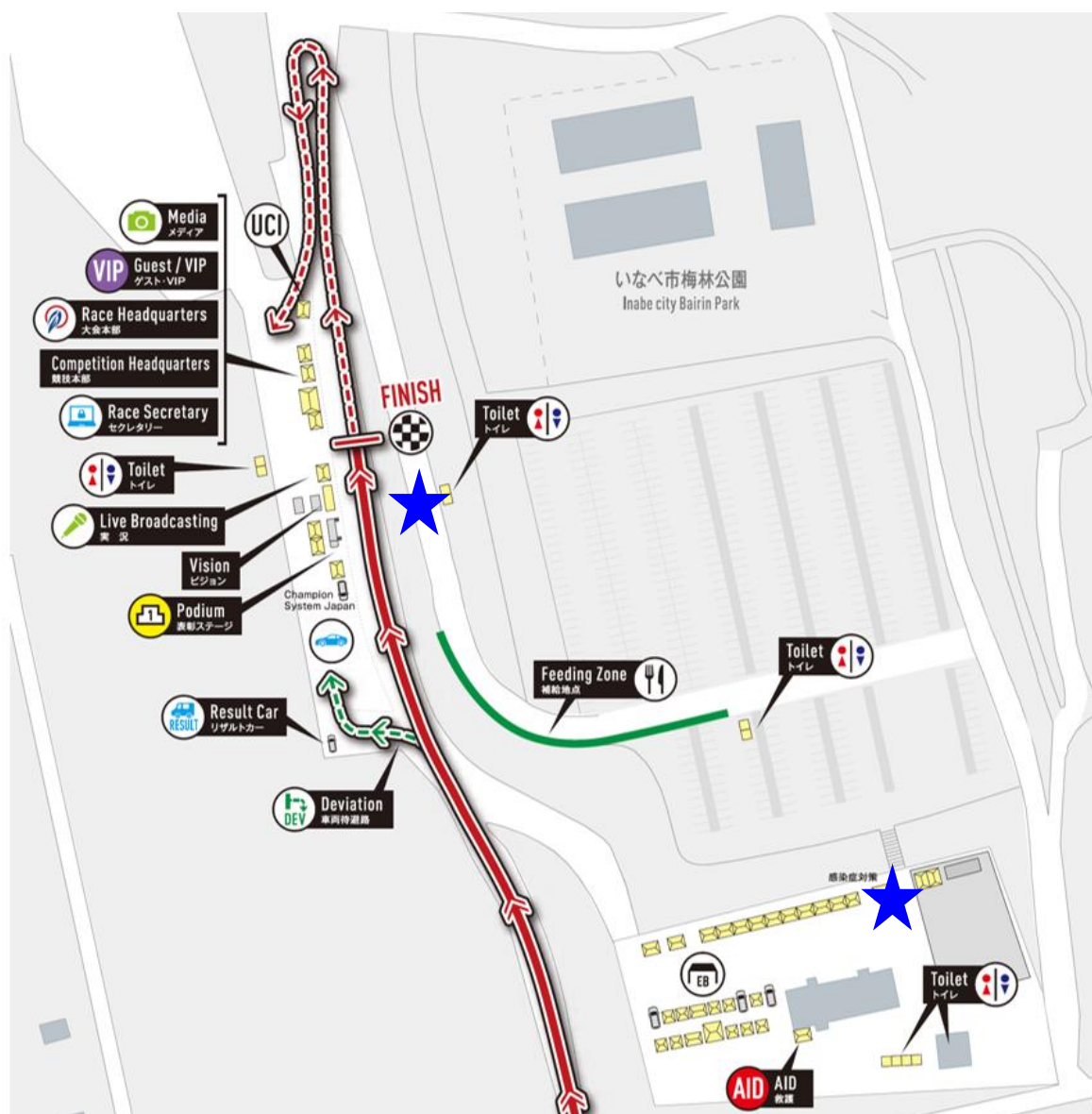
スタート（計1か所）

- ★：感染対策ブース
- ★：スタッフ要巡回



フィニッシュ（計2か所）

★：感染対策ブース



スタート（計1か所）

★：感染対策ブース

★：スタッフ要巡回



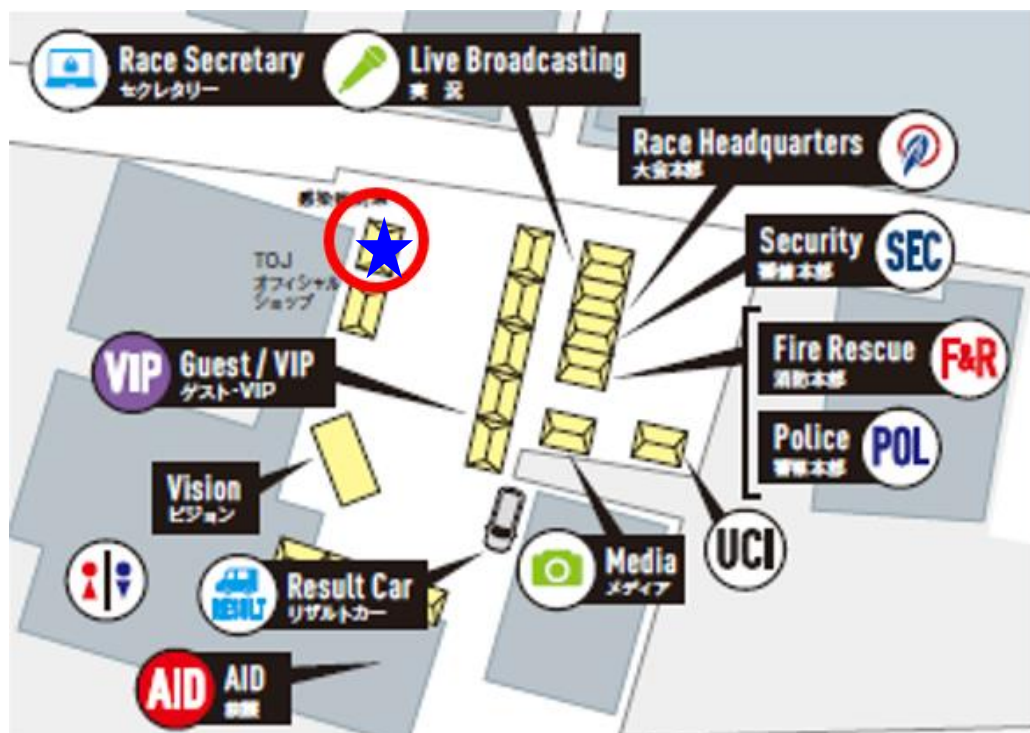
フィニッシュ（計1か所）

※芝生側に出店有の場合は、芝生側に看板設置を行う



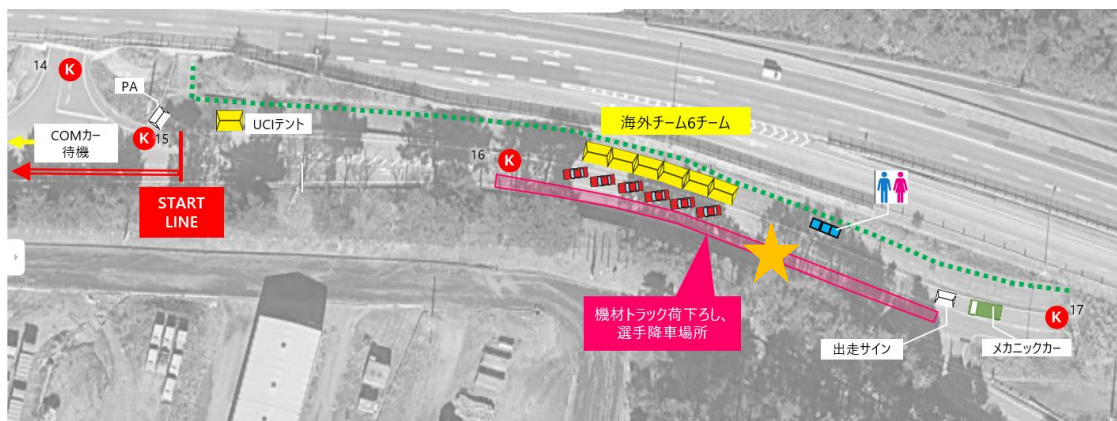
スタート／フィニッシュ
(計1か所)

★：感染対策ブース



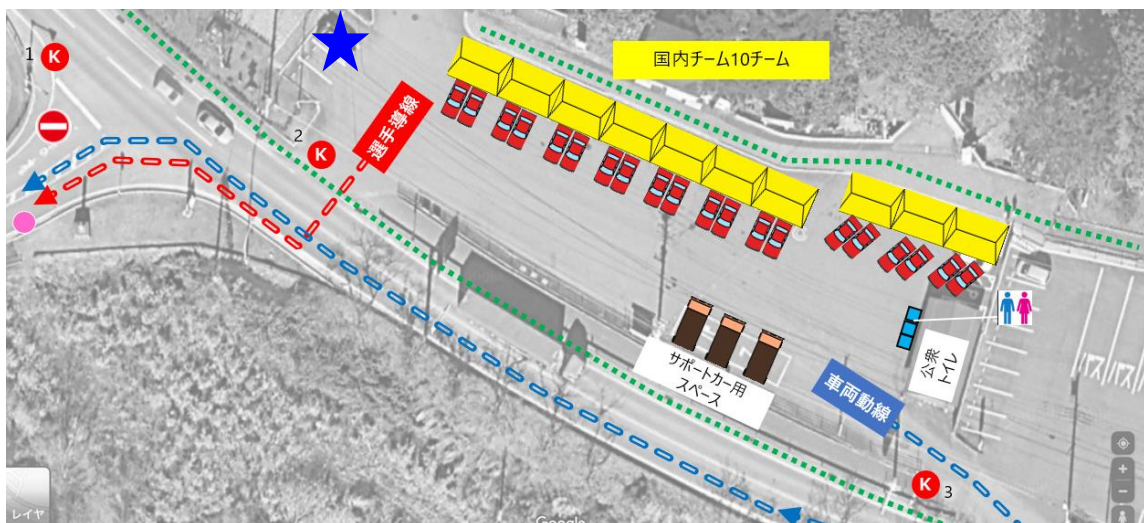
スタート
※海外チームピット側

★：感染対策ブース
★：スタッフ要巡回



スタート（計1か所）
※国内チームピット側

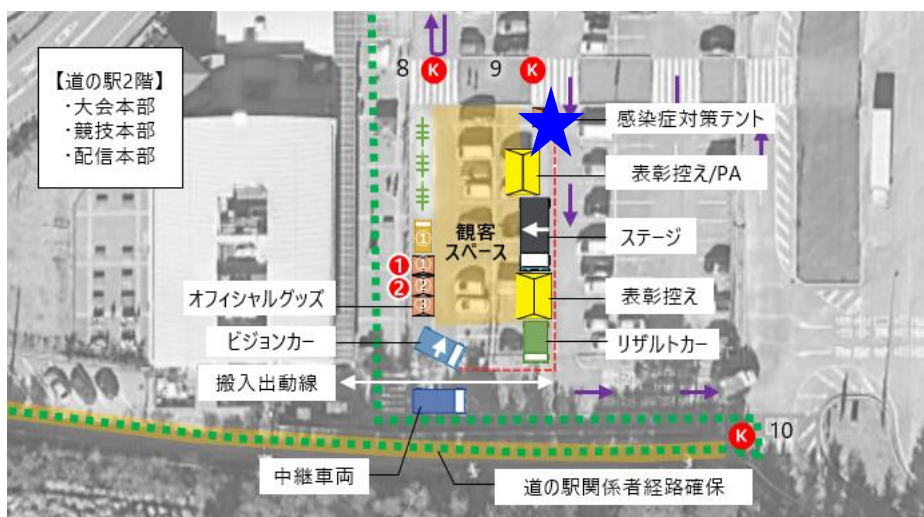
※サポートカーの数次第では、テント設営および看板の設置は無し



道の駅すばしり (計1か所)

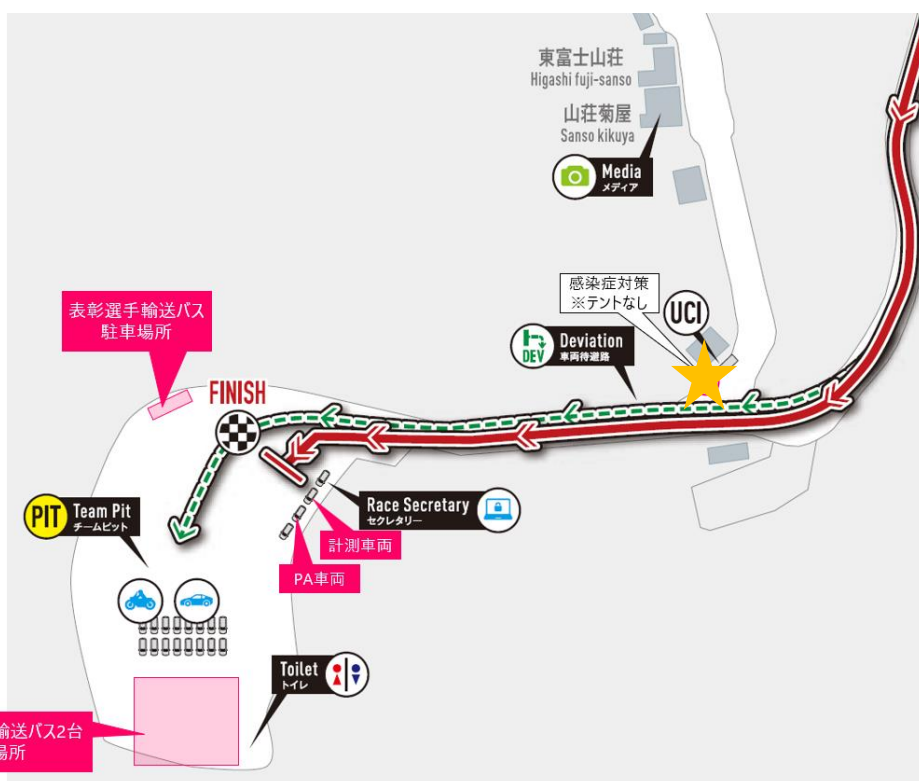
★：感染対策ブース

★：スタッフ要巡回



フィニッシュ

※強風が見込まれるためテント設営および看板の設置は無し



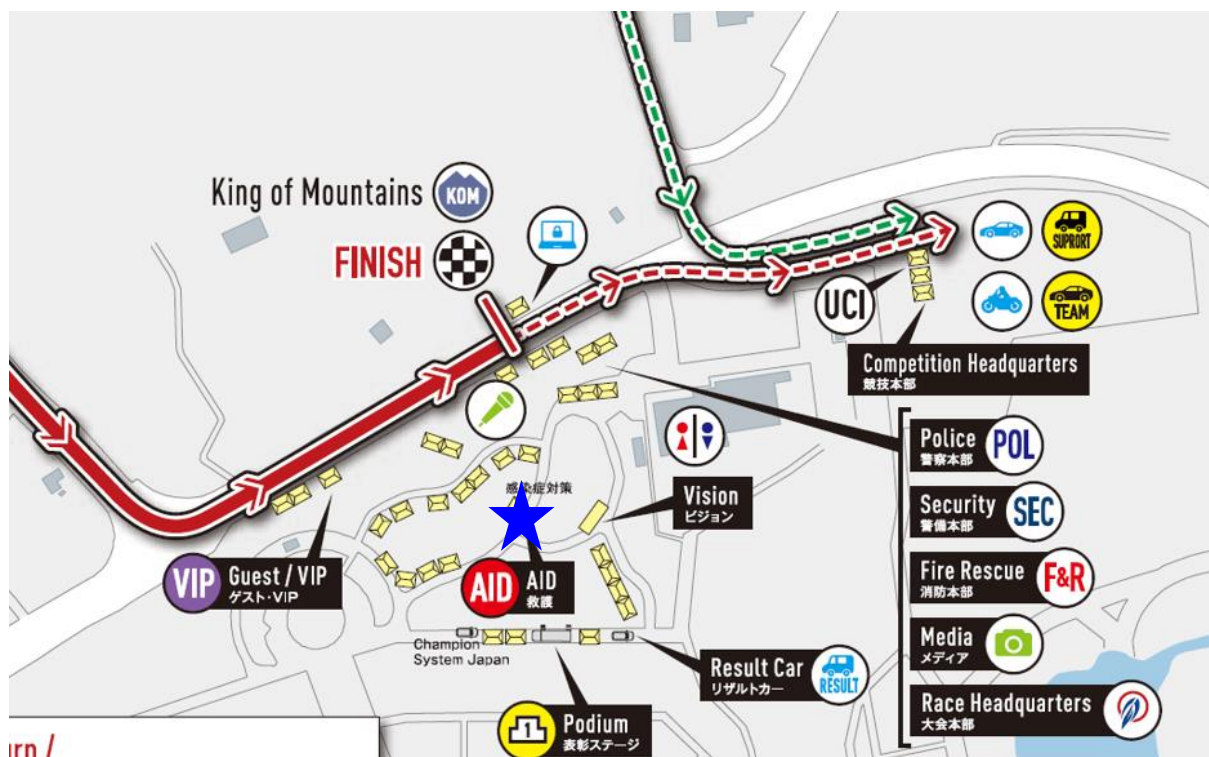
スタート（計2か所）

★：感染対策ブース



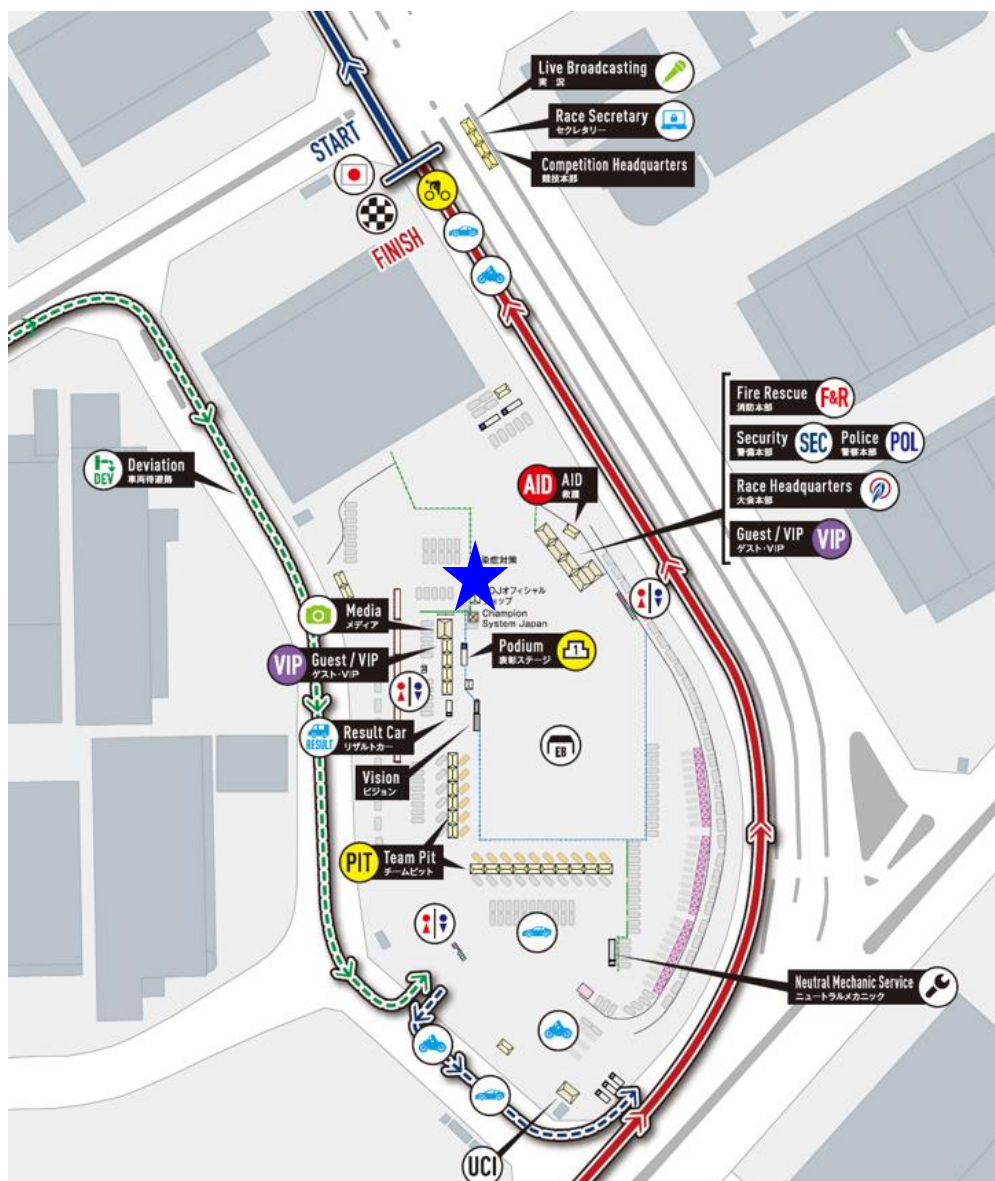
フィニッシュ (計1か所)

★ : 感染対策ブース & 場内救護



スタート／フィニッシュ
(計1か所)

★：感染対策ブース



会場設置注意喚起看板（全ステージ共通）

会場設置注意喚起看板（全ステージ共通）

H1500×W900 自立式

会場内 全4枚

コロナウイルス 感染予防対策実施中



マスク推奨



手指消毒



ゴミの持帰り

体調が悪くなった場合は、速やかに帰宅しましょう。
ご理解とご協力をお願いいたします。





この事業は競輪の補助を受けて実施いたします。

備品リスト

【関係者配布物】

備品	数量	備考
ハンディタイプ非接触型検温機	10	- 各チーム1個（16チーム）希望制
消毒液噴霧器（ボトル）	83	- 出場チーム16本 - 設営運営チーム10本 - 宿泊輸送チーム10本 - 広報チーム3本 - 主催者6本 - 他運営会社や会場内設置38本
飛沫防止パネル	9	- ライセンスコントロール3枚 - ツアーデスク2枚 - 実況席3枚 - 予備1枚
フェイスシールド	900	「設営・運営」「宿泊輸送」「広報業務」「出場チーム」「主催者」へ日数配布 * 個包装マスクは感染対策ブースにて希望者へ配布
マスク	4,240	
個包装マスク	800	
ゴム手袋	2,420	
救急セット	1式	
		メイン会場に配置

【帯同医師診察・検査キット】 * 伊藤医師が所持

備品	数量	備考
救急セット	1式	体調不良者対応用
緊急抗原検査キット	1式	現地での検査用 * 会場内、宿泊先を想定

備品リスト

【感染対策チーム所持】

備品	数量	備考
サーマルカメラ (BS-K1TA70MI-T)	6	2022年購入分 (メイン利用)
非接触型サーモグラフィ (FLIR E4-XT)	2	2021年購入分 (予備利用)
ハンディタイプ非接触型検温機	適量	貸出希望が無かった分を活用
感染対策注意喚起看板	4	
感染対策注意喚起プラカード	5	
防護服	10	
除菌シート (100枚入り)	30	
会場内感染対策ブーステント	5	テーブル込
消毒液噴霧器 (トリガータイプ)	10	感染対策チーム場内消毒用
TOJ感染対策スタッフビブス	150	17名×8日分+予備



サーマルカメラ
Bitstrong社
BS-K1TA70MI-T



機種名: FLIR E4-XT



参考・出典

○UCI

「Rules to be applied for the organisation of road cycling competitions in the context of the COVID-19 pandemic-ロードサイクリング競技会の開催に適用される規則COVID-19パンデミックの環境で」

<https://www.uci.org/pressrelease/the-uci-updates-its-covid-19-health-protocol-for-road-cycling-events-in-2022/6WypWI73KKKKR6k3wkq0sR>

○公益財団法人日本スポーツ協会

「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」

<https://japan-sports.or.jp/about/tabid1278.html>

○公益財団法人日本自転車競技連盟

「緊急事態宣言解除後の大会開催に向けたガイドラインについて」

https://cutt.ly/JCF_guidelineaboutcovid-19

○国土交通省

「新型コロナウイルス感染症に関する国土交通省の対応」

https://www.mlit.go.jp/kikikanri/kikikanri_tk_000018.html

○厚生労働省

「新型コロナウイルス感染症について」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

○厚生労働省

「感染拡大防止と医療提携体制の整備－受診・相談センター／診療・検査医療機関等」

https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kansenkakudaiboushi-iryouteikyou.html#h2_2

○厚生労働省

「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）病原体検査の指針」

<https://www.mhlw.go.jp/content/000678571.pdf>

This image shows a blank sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and extend across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.